

微生物資源シンポジウム報告

平成 28 年度微生物資源シンポジウム 「病原微生物のリソースとしての有効活用 (病原微生物がどのように使われているか)」

コンビーナー 矢口貴志
(千葉大学真菌医学研究センター)

文部科学省では 2002 年度からナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) を開始し、国が戦略的に整備することが重要な生物資源について体系的に収集、保存、提供などを行うための体制を整備してきた。その後 5 年ごとの見直しを行い、2012 年度より第 3 期が開始された。

NBRP 病原微生物参加機関である千葉大学真菌医学研究センター (病原真菌・放線菌、中核機関)、大阪大学微生物病研究所および岐阜大学大学院医学研究科 (病原細菌) と長崎大学熱帯医学研究所 (病原性原虫) は、相互の機関の連携を図り、これらの病原微生物株の収集・保存・提供体制を整備して、高度情報を賦与した信頼できる病原微生物株として提供し、感染症と病原体の教育・研究をする人々を支援している。

本プロジェクトは、今後いかなる感染症が発生しても対応できる病原微生物コレクションを目指している。ここでは、各機関が保存している病原真菌、細菌、原虫の特徴を述べるとともに、それぞれの病原微生物がリソースとして有効活用されている例を各機関の先生方に紹介していただく。

最後に、講演依頼に対して多忙にも関わらずご快諾いただいた先生方および本シンポジウムに参加いただいた皆様に心からお礼申し上げる。

概要

大会名：日本微生物資源学会第 23 回大会

日 時：2016 年 7 月 5 日 (火) 12:45-15:00

場 所：千葉大学・けやき会館 3 階レセプションホール

12:45~13:00 シンポジウム開催にあたり 矢口貴志

13:00~13:30 S-1: カンジダ・グラブラータの体系的且つ網羅的遺伝子組換え体コレクションを用いた病原性研究と抗真菌薬の開発

知花博治 (千葉大学真菌医学研究センター)

13:30~14:00 S-2: 病原性真菌 *Aspergillus fumigatus* とその関連種の比較ゲノム解析

楠屋陽子 (千葉大学真菌医学研究センター)

14:00~14:30 S-3: 細菌 病原細菌コレクション JNBP とその活用例

飯田哲也 (大阪大学微生物病研究所感染症国際研究センター)

14:30~15:00 S-4: 原虫 シャーガス病治療薬開発への応用

平山謙二 (長崎大学熱帯医学研究所)

(敬称略)